

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
平成27年度第2回博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第20条の規程に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されております。

委員は13名で、任期は2年となっております。うち1名は一般公募により選出されています。

会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催されています。

博物館法

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

平成28年3月1日（火）14時00分～15時30分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 講座室

4 出席者

安藤正光委員，関実枝子委員，染川香澄委員，田切美智雄委員，中川輝夫委員，筈谷美佐委員，松下博充委員，水嶋英治委員，安節子委員

※事務局出席者

菅谷博館長，坂巻喜好副館長，田崎俊一副参事兼管理課長，小幡和男副参事兼企画課長，青木賢一教育課長，久松正樹資料課長，齋木均志係長，中里賢係長，小池涉首席学芸員，池澤広美首席学芸員，國府田良樹首席学芸員，沼尻耕一郎係長，鈴木肇主任，丹波優市主事

5 議事概要

(1) 議案説明 (事務局)

議題

- (1) 平成27年度後期事業の報告について
- (2) 平成28年度事業計画について
- (3) 予算・決算などについて
- (4) その他

(2) 質疑・意見交換

○議題(1)～(4)について

A委員：

私は中学校の教員なので、何回か博物館に伺っているが、以前なら予算が厳しい、入館者がなかなか伸びないという話が多かったが、今日は入館者が増えたという話があり、色々な努力をした成果であり、良かったと思う。入館者の件で資料を見ると、有料入館者数の特に小中学生が15%くらい伸びている。おそらく「暮らしの中の動物―嫌われものの本当のすがた―」の企画展の影響なのかなと思う。この博物館は小中学生の科学研究作品展の会場にもなっているが、子どもたちというのは身近なところに目がいくので、身近な生物をテーマにした企画展に興味があったのではないかと思う。そういった意味では今後も小中学生対象であれば、身近なものをテーマにしたら良いと思う。

もう1点は、中1フリーパスについて、資料を見ると平成26年度が856件、平成27年度は700件程度と、伸び悩んでいるようである。3年実施で28年度が一つの区切りになると思うが、できればそれ以降も継続していただければ良いと思う。本校も昨年の中1の利用者は7～8人と寂しい数字だが、なんとか増やせるアイデアをいつも考えている。なかなか難しい面もあるが、継続して実施してもらいたいと思っている。

B委員：

資料を見ると移動教室の実施件数は地元の学校が多いが、城里町でも行っており、是非これを博物館からは遠い、中央地区や県北地区でも行い、博物館の存在感を知らせてほしい。

また、恐竜が鳥に進化したというが、私はニワトリと恐竜のイメージがうまく一致しない。常設展の恐竜ジオラマを更新するということだが、是非身近な生きものである鳥と恐竜がつながるような展示にしてほしい。

学芸員を紹介する「学芸員からこんにちは」のコーナーはすごく良いと思う。学芸員が一生懸命頑張っているから入館者数が増えていると思うので、これからも陰で頑張っている人を前に出していくような展示をしていくと良いと思う。

事務局：

中1フリーパスについては、利用者数が少し伸び悩んでいるが、このような教育分野の事業は数だけの問題ではないと思っている。委員の皆様にも御協力をいただき、博物館からもさらなる利用促進を呼びかけることで、3年目以降も継続実施していきたいと思っている。

C委員：

まず、入館者数が増えたということは今までにない話であり、良い話だと思う。一つ意外だったのは、幼児の入館者数が増えていることである。私が幼稚園で博物館に来たらどうかという話をすると反応が良くなかったのが、入館者数が増えていたのは意外だった。幼稚園は野外の活用が多いということだが、館内の展示も幼児の興味をますます引くものになると良いと思う。また、宿泊施設の人達に館の内覧を知っていただくと、入館者増につながるのではないかと思う。

ウェブサイトに学芸員個人の紹介を載せるというのはとても良いと思う。私も昔、展示物の前に学芸員の顔を出したらどうかと提言したことがあるが、親しみをもってもらうために良いことだと思う。

お手洗いの便器の交換だが、便座は、冬は温かいのか。温かいのであれば良かった。

また、他の博物館への見学ツアーなどは考えないのか。

現在、ジカ熱やデング熱などのニュースがあり、世界で一番人を殺しているのは蚊であるという話もあるが、蚊についての啓蒙を行うのも良いのではないかと思う。

議長：

他の博物館への見学ツアーとはどういうことか。

C委員：

昔、友の会の役員で他館に見学ツアーに行ったことがあるが、友の会会員向けに他の博物館の見学ツアーを企画すると面白いのではということである。

D委員：

資料のアンケートの部分で、リピーターは県内が多いのか、県外が多いのか、その違いが分かれば宣伝の仕方も変わってくると思う。そこが分かればTXでもPRをお手伝いできるかもしれない。また、博物館までの交通機関は何が多いのか、鉄道がどの程度貢献して

いるのかということも知りたい。

また、夏に行うイベントについて提案で、シリーズものということで、例えば1回目は蝶など昆虫を採集して標本を作る。標本は乾かすのに1週間から2週間はかかるだろうから、2回目はその標本を使ったイベントを行い、さらに3回目と続けて、何回も博物館に来てもらう。来館する時にはTXを使ってもらえたら良い。

また、野外のイベントについては、博物館の野外施設だけではなく、例えば筑波山などにフィールドを広げて、現場で活動を行い、さらに博物館に戻ってきて研究を行うなど、地理的に広がりがある活動を行ってはどうか。

羽毛がついたティラノサウルスへの展示更新は非常に話題性があると思う。宣伝する際には秋葉原のTXの広場などを使ったPRなどに協力できるかもしれない。今後相互に相談していつてもらいたい。

友の会について、博物館でも色々なプレミアを考えているだろうが、TXでも県外の会員が何回も博物館に通う時に、TXを使う際に何か特典を付けられれば良いと思うが、実施可能かどうかは今後検討したい。

議長：

アンケートの結果でリピーターが県内、県外どのような割合になっているかは今分かるか。その他、提案に対して回答はあるか。

事務局：

リピーターの県内、県外の割合については、再集計する必要があるので、後日報告したい。

昆虫は、来年度秋の外来種に関する企画展で中心的に扱う予定であり、在来種と外来種の関係について、身近な話題を分かりやすく紹介したいと思っている。再来年度の夏の企画展は博物館として4回目の大きな昆虫に関する企画展を予定しており、子どもたちが研究した成果なども紹介する予定である。昆虫のイベントは、夏に行う「オールナイト昆虫観察」というイベントが毎年大変人気である。

筑波山はTX 開通以来、駅から筑波山へ向かう人がどんどん増えていると思う。当館の学芸員も色々な団体等が筑波山で行うイベントに共催や講師といった形で参加することも多い。筑波山は引き続き当館にとっても大事なフィールドとして位置づけていく。

ティラノサウルスの展示更新の宣伝については非常に良い提案をいただいたので、積極的に検討していきたい。恐竜と鳥の関係については地学研究室の小池から答えさせる。

事務局：

恐竜動刻の入れ替えについては、経費のなかでどれだけできるかという問題はあるが、恐竜と鳥の関係を説明することをメインに、周辺の展示も標本の入れ替えをしながら、新

しい学説を取り入れた展示にしていきたいと考えている。

事務局：

参加体験型の活動としては、再来年開催する昆虫の企画展のために今年研究生を募集している。この研究生には何回も博物館に通って研究した成果を企画展で披露してもらおうと考えている。県内の小中学校や、友の会会員に情報発信しているところである。

E委員：

とても安定した博物館運営を行っていると思う。企画展の空前のヒットおめでとうございます。私も2歳の甥っ子を連れて来て見学したが、記念撮影ができたり、体験コーナーで遊べたり、その後は常設展を見たりと、色々な広がりを持った博物館だと思う。子どもと一緒に安心して来られる所だと感じた。

また、恐竜動刻の予算獲得も良い話である。福井県立恐竜博物館では恐竜を売りにしてすごい数の入館者を集めている。福井県の駅を出た所に恐竜のジオラマがあったり、ホームのイスにも恐竜がいて写真が撮れたりする。ああいうものを知事に見せたら負けてられないと思うのではないか。

他の博物館でもそうだが、大ヒットの企画展があった時は翌年がつらくなることが多い。来年度は恐竜ジオラマの更新で人が来ると思うが、他にも常設展のほうもちょっとした更新の積み重ねをしていったほうが良いと思う。幼児向けの教育プログラムの開発も大賛成である。地元のデザイナーにイラストを描いてもらうのも良いのではないか。実際に子どもに試験的に使わせながら作っていくと良いと思う。

F委員：

中1フリーパスの利用促進については早速中学校に声をかけたいと思う。

「くらしの中の動物」の企画展は、一度も博物館に行っていない人にチケットを渡したところ、最初は企画展のテーマに母親達が不安を感じていたが、実際に行ってみると楽しかったという感想を聞いた。キャラが親しみやすいと皆さん言っていた。また子どもにも分かり易いという感想もあった。中学生で普段は興味を持たないような子もポスターを見て行ってみたいと思ったようだ。

また、幼児についてだが、展示のガラスケースに入ったものは小学生低学年までの子どもは高くて見られなくなっている。踏み台では危険なこともあると思うので、小さな子どもが見るときには台が下がるなどの工夫があると、幼児も来館しやすくなるのではないか。

木道の整備の計画があるということで安心したが、幼児の親からはさらに、老朽化している野外の遊具は安全なのかと聞かれたことがある。安全委員会ではどのようなことをしたのか。

事務局：

2月に安全委員会を開催した。委員会には施設の設計にも携わった外部の専門家等にきていただき、現状を見てご意見をいただいた。鉄具の部分は塗装を定期的にしないと錆などが目立ってくるので、定期的にやったほうがよいという意見をいただいた。木材のほうには破損が目立つ部分を優先して補修中心でやっていきたいと考えている。

F委員：

遊具の手すりなどにもたれても大丈夫なのか。

事務局：

今のところは大丈夫である。

G委員：

入館者数は、9月は洪水の影響で減少したのだろう。一方、12月と1月は、対前年比で230%増や123%増とすごい伸びだが、これは企画展の成功のみの成果なのか、そのほかに原因があるのか聞きたい。また、無料入館者の「その他」という項目は招待券の入館者を数えているのか。

また、アンケート集計結果で企画展をどうやって知ったかという項目があるが、インターネットの割合は茨城、千葉、埼玉と都会に近づくほど大きくなっている。このデータから地域によってチラシとインターネットどちらで広報していくかを考えたほうが良いと思う。電車の車内中吊り広告は情報源として割合が少ないが、恐竜のジオラマの更新について中吊りで広告すればこの割合が増えるのではないかと。また中吊りだけではなく、動画をTXの駅などで流せると良いのではないかと。予算を見ると企画広報費がかなり減らされているので厳しいかもしれないが、TXに支援してもらえると良い。

トイレの洋式化についてだが、私は何回も館内のトイレを見回ったことがあり、なかなか洋式化しないと思っていたので、大変良いと思う。是非全館のトイレが洋式化すると良い。

友の会だが、大震災の時に大きく下がっているように見え、今後なんとか盛り返す必要がある。私も友の会会員になっているが、会員がなにをしてほしいのかという要望をうまくつかみ切れていないため、新たな入会者が増えないのかなと思う。継続の会員はある程度いるが、新たな会員獲得のためにはメリットを分かりやすくするべきである。友の会会員の分布はかなり広範囲に広がっており、これは今後の広報の重要なツールになりそうである。

H委員：

他県の博物館の入館者数を見ると豊橋市自然史博物館は51万6,000人もの入館者数があ

るが何か特別なことをしているのか聞きたい。

また、今日テレビで見たが、徳島に国際美術館があり、すべての展示品に触れるようになっており、ものすごい入館者数がある。特殊なタイルで作っているようである。前回の企画展ではへびに触ることができたが、あのように触れる展示というのは子どもたちがとても興味を持つ。

アンケート結果からも家族連れが一番多いが、例えば子どもが自分でとった昆虫を持ってきて競技してもらったり、発表をしてもらったりといったイベントをやると、子どもの学年が上がるたびに能力が上がっていくのではないか。特に男の子はアリが好きである。そのような昆虫の発表会を提案したい。子どもが親を連れてくるようなイベントを簡単なチラシを作って広報したら良い。

事務局：

12月、1月に入館者については、今まで実施しなかった時期に県立図書館での移動博物館を実施した人数が加算されているため、大きく伸びている。

アンケートの中吊りの情報源としての割合がそれほど多くないという話については、中吊りの掲出期間が1つの企画展毎に数日であるにも関わらず新聞等にひけをとらない数字があるというのはものすごい効果であると考えている。車で来たお客様でもTXで中吊りを見たという人は多い。

豊橋市自然史博物館は市立の博物館だが、他にも北九州市立自然史・歴史博物館や大阪市立自然史博物館など市立博物館は非常に成果を上げていて、北九州市立自然史・歴史博物館は数年前にリニューアルして、ものすごいお客様を集めている。豊橋市自然史博物館は動物園と植物園を併設した複合施設で、県内外から多くのお客様が来ている有名な施設である。参加体験型のイベントについては、科学館が特にそのような手法を取り入れているので、参考にしたいと考えている。

福井県立恐竜博物館は、1月末現在で入館者数が80万人を超えており、1年間では100万人になるほどの勢いがある。交通に不便で、建物もあまり大きくはない施設であるので、100万人というのは野外のイベント参加者も含めた数字ではないかと推測している。それでもゴールデンウィークなどはタクシーが渋滞で博物館にたどり着けないほど混むと聞いたことがあり、相当な人気であることは間違いない。県の政策で、観光客を博物館一点に集めているようである。福井県に負けずにやるのは厳しいかもしれないが、恐竜の動刻のリニューアルに予算が付いたのも、福井県立恐竜博物館の事例があったことが影響しているだろうから、良い物を作っていきたい。

事務局：

TXの駅には各駅に電照看板を設置していただいて、中吊り広告も格安でやらせていただいて、今日さらに広報の御提案をいただいて大変ありがたい。NHKも局長からいつも御支

援をいただいている。

豊橋市自然史博物館が非常に広大な動植物園の利用者もカウントしているように、各館によって入館者数の数え方は様々である。当館の12月、1月の入館者が移動博物館の加算もあり多くなったという話をしたが、移動博物館は、閉鎖空間でそこを目的として入ってくるお客様をカウントしており、県庁と相談して実施しているものである。

本日は貴重なご意見をありがとうございました。今後とも御支援、御協力をお願いしたい。